

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-2-3
文化芸術の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 文化国際課文化振興室長 柳樂ひとみ 電話番号 0852-22-6776

事務事業の名称	県立美術館事業	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	美術に対する県民の興味や関心が高まる
事業概要	・平成11年3月に開館した県立美術館において、企画展・常設展の実施、教育普及活動、調査研究等の美術館活動を実施し、県民の文化活動の拠点とする。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 美術館入館者数	目標値		240,000.0	240,000.0	240,000.0	240,000.0	人
	取組目標値							
	式・定義 入館者数	実績値	227,657.0	229,038.0	203,654.0			
		達成率	-	95.5	84.9	-	-	%
2	指標名	目標値						
	取組目標値							
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	427,978	399,064
うち一般財源 (千円)	323,483	308,204

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

・開館以降最低の入館者数だった26年度から増加傾向に転じ、27年度は前年度比14%増、28年度は前年度比1%増であったが、29年度は前年度比11%減となった。
 ・改修工事等を想定した企画展やギャラリー利用期間の制限等による影響と、過去2年のような爆発的な集客力のある企画展がなかったことが原因と考えられる。
 ・入館者の内訳は、年代別にみると50~60代が多く、女性の割合が高い状況は変わらないが、外国人は平成28年度初めて1,000人を超え、引き続き増加傾向にある。
 ・平成25年から始めた「かぞくの時間」の取組や、「ファミリーデー」「ミュージアムフェスティバル」などのイベントを通じ、若年層、子ども連れの集客を図った。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

・企画展の観覧者数でみると対前年度比31%減であるが、イベント等への参加者が約700名増加、またコレクション展において「小企画展」を例年より多く開催したこともあり、入館者数の減少を抑えられた。
 ・地方創生拠点整備事業で、「こどもから大人まですべての人が楽しめる美術館」を目指し改修工事を行い、子どもや家族連れ、外国人等の集客が図られるような機能を追加した。
 ・これまでの美術館の取組、姿勢に対する評価により、沢山の寄贈を受け、収蔵品が増加した。今後、コレクション展での活用が可能となる。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・目標値24万人が達成できていない。
- ・集客が企画展内容に大きく左右される。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・予算の制約がある中で、多くの人に知られ、誘客に繋がる企画展を継続的に開催することには限界がある。
- ・開館後の年数も経ち、県民等が美術館に対し目新しさを感じなくなり、来館の目的、きっかけとなるものが少ない。(観光等を意識した企画が十分にされていない。)
- ・リニューアルオープンが平成30年4月であり、新たな機能を十分に活かできていない。

③原因を解消するための「課題」

- ・来館者の要望にマッチする展示内容等の企画
- ・整備事業により改修、追加された機能等の周知及びそれを活かしたイベント企画
- ・収蔵品を活かし、コレクション展での誘客促進

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・メリハリのある予算配分により、多くの誘客が可能な企画展を開催する。
 ・平成30年度から展覧事業と教育普及事業の予算をまとめ「企画展総合事業」としたことも踏まえ、学芸員が研究や専門性の追求だけでなく、観光や予算を意識した企画ができるよう、今後も研修や指定管理者等との企画会議を充実させる。
 ・指定管理者も含めた美術館に関わる者が、美術館トータル運営を考え、連携・協力して展示・イベント等を企画・実施し、常に改善を図る。
 ・子どもから大人まで、県内はもとより県外・国外の多くの方が来館し、楽しめる整備を行ったので、その有効活用と広報活動による周知を図る。
 ・美術品等の展示・保存にとっては重要な照明設備や常に適切な温度・湿度管理ができる空調設備等の環境を整え、収蔵品の適切な保存と活用を図る。
 ・開館20周年に向け初めて訪れる方、再訪する方両者を増やす工夫を実施するとともに、その先を見据え、施設・設備の更新の時期や方法の検討と展覧会との調整を行う。